

ANIORU's CUP 2014
全日本学生外洋帆走選手権
SAILING INSTRUCTIONS
帆走指示書

1. 規則

- 1-1 本レガッタには、「Racing Rules of Sailing 2013-2016(RRS)」に定義された規則を適用する。
- 1-2 付則 L(帆走指示書ガイド)の付属文書 B(主催団体より用意された艇)を適用し、クラス規則は適用しない。
- 1-3 レース公示と帆走指示書に矛盾が生じた場合は帆走指示書を優先する。
- 1-4 神戸大学の施設利用の規定に従うこと。

2. 競技者への通告

競技者への通告は、大会本部(神戸大学海事科学部ポンド)内に設置された公式掲示板で行う。

3. 出艇申告

その日のレースに参加する全てのチームは、艇長会議終了後に出艇申告書を大会本部へ提出しなければならない。また、出艇申告書を提出した後、リタイアしたチームはその旨を大会本部または本部艇のどちらかへ直ちに申告しなければならない。

4. 帆走指示書の変更

- 4-1 帆走指示書の変更は、それが発効する当日の08:30までに掲示する。ただし、大会日程の変更(1日目は変更しない)は、発効する前日の19:30までに掲示する。
- 4-2 海上においては、L旗を掲げた本部艇より口頭にて通告する。

5. 陸上で発する信号

- 5-1 陸上で発する信号は、係留中の本部艇、および大会本部前仮設ポールに掲揚する。
- 5-2 AP旗が音響二声と共に掲揚された時は(降下の時は音響一声)、「レースは延期された。予告信号 はAP旗の降下後30分以後に発せられる」ことを意味する。この項はレース信

号、AP 旗を変更している。

6. 大会日程

6-1 スケジュール

3月13日 (木)	09:00 ～16:00	大会受付(大会本部) 公式練習
3月14日 (金)	08:00～15:00 15:00 16:00 16:30 19:00	公式練習 艇体チェック 開会式(海事科学部4号館) 艇長会議、RRS 講習 パーティー(海事科学部2号館)
3月15日 (土)	08:00 09:55	艇長会議(大会本部) 第1レース予告信号(1日目)
3月16日 (日)	08:00 09:55	艇長会議(大会本部) 最初のレースの予告信号(2日目)
3月17日 (月)	08:00 09:55	艇長会議(大会本部) 最初のレースの予告信号(3日目)
3月18日 (火)	08:00 09:55	艇長会議(大会本部) 最初のレースの予告信号(4日目)
3月19日 (水)	08:00 09:55 18:00	艇長会議(大会本部) 最初のレースの予告信号(5日目) 閉会式(海事科学部総合学術交流棟)
3月20日 (木)		予備日

6-2 大会受付は3月13日の公式練習前に行う。公式練習に参加するチームは、参加前に大会受付を行うこと。

6-3 レガッタは最大15レース(風上/風下コース、大三角コースレース)を予定している。

6-4 レガッタの最終日には、15:00以降に予告信号を発しない。

7. クラス旗

クラス旗は ANIORU 旗を使用する。

8. レース海域

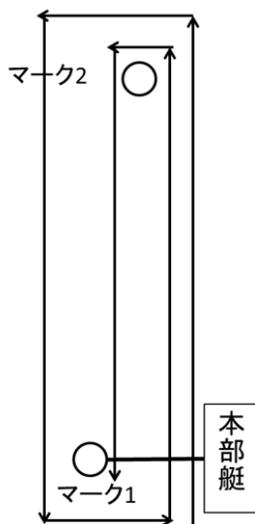
レース海域は大阪湾北部、阪神港内海域とする。

9. コース

9-1 下記のコース見取り図に、レグ間のおおよその角度、通過するマークの順序およびそれぞれのマークをどちら側に見て通過するかを示す。

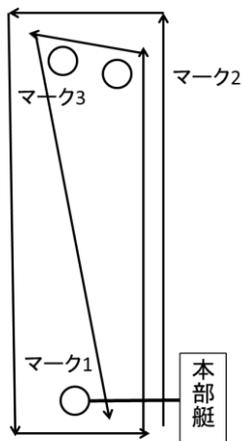
9-2 風上/風下コース

9-2-1 コース 1: 数字旗 1 を本部艇で掲揚する。



数字旗1
風上/風下コース

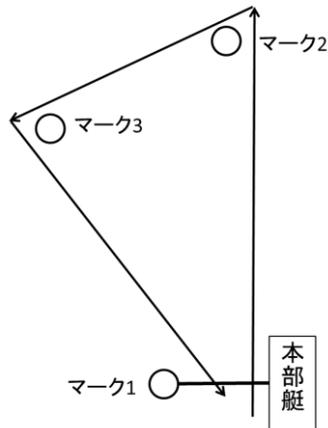
9-2-2 コース 2: 数字旗 2 を本部艇で掲揚する。



数字旗2
風上/風下コース

9-3 大三角コース

コース 3: 数字旗 3 を本部艇で掲揚する。



数字旗3
大三角コース

- 9-4 予告信号以前に、本部艇は数字旗により次のレースのコースと次のマークへのおおよそのコンパス方位を掲示する。
- 9-5 マーク変更の場合は、運営艇に C 旗を掲揚し、新しく設置したマークのおおよそのコンパス方位を掲示する。ただし、+旗、-旗は掲揚しない。この項は RRS 規則 33(b)を変更している。
- 9-6 コース 2 においてマーク 2 を変更した場合、マーク 3 をコースから除外する。
- 9-7 コース短縮の場合はその回航マークと S 旗を掲げたポールとの間をフィニッシュ・ラインとする。

10. マーク

- 10-1 マーク 1、マーク 2、マーク 3 はオレンジ色で円筒形のブイを使用する。
- 10-2 マーク 1 はスタート・マークとフィニッシュ・マークを兼ねる。
- 10-3 マークを変更する場合は同じ色・形状のものを使用する。

11. スタート

- 11-1 レースは規則 26 に従ってスタートする。
- 11-2 スタート・ラインはスターボードサイドの端にある本部艇のマストとポートサイドの端のスタート・マークとの間とする。
- 11-3 スタート信号から 4 分経過以降にスタートする艇は審問なしに「DNS」と記録される。この項は付則 A4 を変更している。

12. フィニッシュ

フィニッシュ・ラインはポートサイドの端にある本部艇のマストとスターボードサイドの端のフィニッシュ・マークとの間とする。

13. タイムリミット

- 13-1 風上/風下レースにおいてはスタート信号後 30 分以内、大三角コースレースにおいては 1 時間以内に 1 艇もマーク 2 を通過しなかった場合にはレースを中止する。
- 13-2 風上/風下レースにおいては先頭艇がフィニッシュした後 30 分以内、大三角コースレースにおいては 1 時間以内にフィニッシュしない艇は、「DNF(フィニッシュしなかった)」と記録される。この項は RRS35 と付則 A4、A5 を変更している。

14. 着艇申告

その日のレースに参加した全てのチームは、着艇後に着艇申告書を大会本部へ提出しなければならない。その際、競技艇の艇体及び艀装に損傷がある場合、大会本部に報告すること。

15. 抗議と救済要求

- 15-1 抗議書と救済書は大会本部で入手できる。締切時間はその日の最終レースの最終艇フィニッシュ後 90 分とし、大会本部に提出すること。なお抗議する艇はフィニッシュ後、直ちに本部艇に抗議する相手の大学名と、その旨を通知しなければならない。またフィニッシュできず抗議する場合は、できるだけ早い時期に本部艇、または大会本部に抗議する相手の大学名とその旨を通知しなければならない。
- 15-2 抗議は、できるだけ早く、ほぼ受付順に審問される。
- 15-3 抗議の通告は、審問の場所及び時間、抗議の当事者、又は証人として指名された者を競技者に知らせるため、抗議受付締切後 30 分以内に行われる。

16. 得点

- 16-1 得点は付則 A 低得点方式を適用する。
- 16-2 レガッタが成立するためには、1 レースを完了することを必要とする。
- 16-3 レガッタ中完了したレースが 6 レース未満の場合、艇の総合得点はレース得点の合計とする。
- 16-4 レガッタ中完了したレースが 6～10 レースの場合、艇の総合得点は最も悪い得点を 1 つ除いたレース得点の合計とする。
- 16-5 レガッタ中完了したレースが 11 レース以上の場合、艇の総合得点は最も悪い得点とそれに次ぐ悪い得点の 2 つを除いたレース得点の合計とする。

17. 安全規定

- 17-1 レース委員長の裁量により、危険と判断したらレースを行わない場合がある。
- 17-2 スピネーカーの使用はレース委員長の判断により制限されることがある。スピネーカーの使用を制限するレースに関しては、予告信号と共に運営艇にて Y 旗を揚げる。レース中にスピネーカーの使用を制限する場合、先頭艇がマーク 2 を回航する前に、マーク付近にてマークボートが音響信号(連続音)と共に Y 旗を揚げ、本部艇でも Y 旗を揚げる。この場合先頭艇が次に帆走するレグ以降においてスピネーカーの使用が制限される。レース中にスピネーカーの使用の制限を解く場合、先頭艇がマーク 2 を回航する前に、マーク付近にてマークボートが音響信号(連続音)と共に Y 旗を降ろし、本部艇でも Y 旗を降ろす。この場合先頭艇が次に帆走するレグ以降においてスピネーカーを使用できる。この項は、レース信号、Y 旗を変更している。
- 17-3 コース 2 ではマーク 2 とマーク 3 の間でスピネーカーのリーチ、ラフ、フットの一部分でもブームより上に揚げてはならない。ただし、スピポールセットは認める。
- 17-4 競技者は出港から入港までの間、個人用浮揚用具を着用しなければならない。この項は Y 旗、RRS27.1 および RRS 規則 40 を変更している。

18. 艇体

- 18-1 付則 L(帆走指示書ガイド)の付属文書 B(主催団体より用意された艇)に次項を追補する。
- 18-2 レース実行委員会は、参加大学に神戸大学及び甲南大学所有の J24 を貸与する。なおレースで使用する艇の割り当てについては、開会式後に行われる艇長会議にて決定する。
- 18-3 セールは割り当てられた艇に搭載されているものを使用しなければならない。
- 18-4 他艇との接触によって生じた艇体、セール、艀装その他備品の損傷は、その保険免責額内の修理費用を当事者間で負担するものとする。その負担割合は主催団体、ジュリーの協議によって決定する。
- 18-5 負傷や艇の損傷を予防するため、以下の行為を禁止する。
- (a)当初意図された目的、または特に認められた目的以外に艀装品を使用すること。
 - (b)損傷を引き起こす恐れがあることが明らかであるようなセーリング方法をとること。
 - (c)スピネーカーの帆布にラインを取りつけること。
 - (d)テルテールを取り付けるためであっても、セールに穴を開けること。
 - (e)ハル・デッキ及びシート類に直接マーキングすること。
- 18-6 各レース日の終わりに
- (a)損傷がなければ、セールをバッグに入れ収納すること。
 - (b)その日最初に艇に乗り込んだときと同様にきれいに清掃して艇を離れること。
 - (c)バックステイのテンションを緩めること。

(d)チェック・リストに従って備品をチェックすること。

(e)コンディションチェック・レポートを提出すること。また損傷が生じた場合、コンディション・レポートの他にダメージ・レポートを提出しなければならない。

- 18-7 大会の進行を妨げるような重大な損傷を引き起こした学校に対して、レース実行委員会はその学校を失格にすることがある。
- 18-8 期間中のバウハッチホイストを禁止する。
- 18-9 持ち込み可能な艀装品を以下に記載する。なお、下記以外を持ちこみたい場合は備品持ち込み申請書に記入し、大会受付時にレース委員長まで提出すること。
コンパス、ウインチハンドル、工具、リペア用具、救急用品、海図、ボースンチェア、懐中電灯、RRS

19. 運営艇

運営艇は次の通りとする。

本部艇: linkworks(神戸大学)

マークボート: 甲竜8世(甲南大学)

その他必要に応じて艇を追加、変更した場合は艇長会議にて報告する。

20. 潜水用具とプラスチック・プール

大会期間中、水中呼吸道具、プラスチック・プールおよびそれらに類するものは、艇の周辺で使用してはいけない。

21. 停泊および上架の制限

競技艇は大会期間中、海事科学部ポンド内の指定された場所に係留すること。レース実行委員会が認めた緊急の場合を除き上架してはならない。

22. 無線通信

各艇はレース実行委員会が用意した無線機を搭載し、出港から帰港までの間、常に聴取しておくこと。

さらに携帯電話を所持し、出艇申告時に常時連絡可能な番号を届けること。無線機は本部艇、マークボート、競技艇がそれぞれ1機所持することとする。ただし、携帯電話については緊急の場合を除き通信を行ってはならない。

23. 責任の否認

このレガッタの競技者は自分自身の責任で参加する。RRS 規則4「レースをすることの決定」参照。主催団体、ならびに公認、後援、協力団体は、レガッタ前後、期間中に生じた物理的損害または身体的障害もしくは死亡に対していかなる責任も負わない。